

令和5年度第1回昭島市総合戦略推進委員会

議事要旨

日時：令和5年7月7日（金）

午後6時30分～8時30分

会場：市民ホール

次 第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長あいさつ
4. 委員及び事務局自己紹介
5. 議題
 - ① 委員長、副委員長の選出
 - ② 昭島市総合戦略の概要について
 - ③ 総合戦略の基本目標における政策指標の現状
 - ④ 令和4年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価
6. その他
7. 閉会

配布資料

- ・資料1 昭島市総合戦略推進委員会委員名簿
- ・資料2 昭島市総合戦略推進委員会要綱
- ・資料3 令和4年度総合戦略の基本目標における政策指標の現状
- ・資料4 令和4年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況一覧
- ・資料5 デジタル田園都市国家構想基本方針について
- ・資料6 デジタル田園都市国家構想基本方針概要（抄）
- ・資料7 デジタル田園都市国家構想総合戦略概要（抄）

出席者

委員長・・・松本祐一（多摩大学総合研究所）

副委員長・・・三田陽子（立川公共職業安定所）

委員・・・武藤茂（昭島市商工会）、和田幸一（日本電子株式会社）、
小野修（昭島緑郵便局）、松崎秀雄（公募市民）、久保充司（公募市民）
欠席（桑原圭子（ジェイコム東京多摩局））

事務局・・・永澤企画部長、村山企画政策課長、杉本企画調整担当係長、後藤主任

1. 開会

2. 委嘱状交付

○各委員に対し委嘱状交付

※委員の任期は令和5年7月7日から令和7年3月31日まで

3. 市長挨拶

4. 委員及び事務局自己紹介

5. 議題

議題①委員長、副委員長の選出

○事務局より委員長には松本委員、副委員長には三田委員の選出を提案し、全会一致で承認を得た。

議題②昭島市総合戦略の概要について

【委員長】

ここからは私が議事を進行させていただきます。では、議題②昭島市総合戦略の概要について事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】

本日1回目の委員会となりますので、まず、まち・ひと・しごと創生昭島市総合戦略の策定の経緯について若干概略を説明させていただきます。国におきまして平成26年度に少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京への人口の集中を是正しそれぞれの地域で住みよい環境を確保し将来にわたって活力のある日本社会を維持していく、こうしたことを目的にまち・ひと・しごと創生法が制定され、これを受け、将来の方向性を示したまち・ひと・しごと創生長期ビジョン及び2015年から5か年の計画とする政策目標ですとか基本的な施策の方向性をまとめたまち・ひと・しごと創生総合戦略が閣議決定されました。この第1期5年間で取組が進められてきた結果、地方創生の意識や取組方は確実に根付いているものの、引き続き取り組むべき課題があるとして、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略が令和元年に策定されております。自治体におきましても国の戦略の趣旨を勘案しつつ、地域の特性を踏まえた取組が求められておりましたことから、昭島市では平成28年2月に第1期となる総合戦略を策定し、その後、現在は令和4年度から8年度の5か年を計画期間とする第2期目の総合戦略を令和4年3月に策定し、取組を進めているところでございます。この第2期目の総合戦略は、より効果的に取組を進めるため昭島市の将来人口展望を示す人口ビジョンと総合戦略における基本目標や施策の基本的方向性を、最上位計画である総合基本計画に包含し策定いたしました。またその具体的な施策を取りまとめた実行計画を策定し、PDCAサイクルの視点に立った取組を進めているという状況でございます。本委員会はPDCAサイクルのC（Check、評価）の部分について実施していくところでございます。併せて、市役所内でも関係部署に所属する職員による委員会を設置し、評価検証を実施していくところでございます。

次に、国におけるデジタル田園都市国家構想基本方針について若干触れさせていただきます。デジタル田園都市国家構想基本方針の概略説明と一緒に、このデジタル田園都市国家構想と本

市の総合戦略とでどのように関連して取り組んでいくかという点を御説明したいと思います。お手元の資料５から７の内容になります。私からの説明は資料５に基づいて進めさせていただきます。資料６と７は、国の基本方針と戦略の概要資料となります。こちらは後ほどご覧いただければと思います。昨年６月に閣議決定されたデジタル田園都市国家構想基本方針によりまずと、解決すべき地方の社会的課題に対し、デジタルを地域課題解決のための鍵として捉え、民間を含め、地方におけるＤＸを積極的に推進することとしております。そして基本方針に基づく国の施策の進め方ですが、デジタルの力を活用し、全国どこでも、誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指す上で、長期的な方向性を示すため第２期となる２０２４年までを計画期間としていた国の総合戦略を抜本的に改定し、２０２３年度から２７年度５か年の新たな戦略として、昨年１２月にデジタル田園都市国家構想総合戦略が策定されております。この国の新たな戦略を受け、地方では新型コロナウイルス感染症の感染拡大やデジタル技術の進展浸透などといった、時宜を踏まえて、地域の個性や魅力を生かした地域ビジョンを再構築した上で、既存の総合戦略の改定に努めるべきとされております。こうした動きの中におきましての本市の対応方針でございます。本市の総合戦略は、人口減少超高齢社会のもたらす構造的な課題の克服に向け、先ほど申し上げましたとおり、本市の最上位計画である総合基本計画と整合をとり、一体的戦略的に施策の展開を図るため、総合基本計画に包含して策定したものでございます。この総合基本計画は、令和４年度から８年度までの５年間を計画期間としておりますことから、この間、総合戦略それ自体の改定は行わないこととしたいと考えております。一方で将来人口展望を踏まえ、その目標を達成するための具体的な施策を取りまとめた実行計画編につきましては、計画期間内であっても、時代に見合った実施内容に見直すため、ＰＤＣＡサイクルを回して取り組んでいくこととしております。そのため、実行計画編に記載のある重点事業をはじめ、総合戦略の目的である人口減少、超高齢社会のもたらす構造的課題の克服に資する施策の展開に当たりましては、国の新たな戦略を踏まえ、デジタルの力を活用する視点に立った、庁内、そして本委員会における御意見を伺う中で、その実施方法を見直していくこととしたいと考えております。最後に、大まかな今後のスケジュールでございます。今年度中、本日を含めて合計３回程度の開催を予定しております。委員会では、基本目標ごとに皆様の御意見を頂戴し、報告書として取りまとめ、１２月の総務委員協議会を目途に、議会への報告をさせていただきたいと考えております。

【委員長】

まず、ここで総合戦略の概要について、皆様から御質問御意見があれば、お願いできればと思います。今の説明でも結構複雑に感じたと思うんですが、少し補足すると、結局総合戦略というのは最初は単体の計画としてスタートしたが、現在は総合基本計画という市全体の計画の中に位置づけられていますよと。先ほど私も申し上げましたけども、基本的に総合戦略というのは人口減少とか、少子化ということの対策として戦略を立ててやっていきましょうよというふうな方針だったんですね。ただ元々はどちらかというと東京よりも地方のためというふうな計画とか戦略でしたので、東京とかにははまらない部分というのもありますけれども、うまくそれを総合基本計画に入れ込んだ形で、ただ、やはり人口減少には対応していかなきゃいけないというふうなことは、やはり注力しなければいけないということで、ちゃんと残っているんですね。さらに今はこのデジタル田園都市国家構想という国の方はまた違う形で戦略を出してきています。ただこれもかなり地方を何とかしなきゃという意識が強い構想ですので、昭島市

としては現状の計画のまま、戦略のまましばらくはやっていきましょうよというふうな、御説明だったというふうに捉えましたので、それを踏まえて、もし何か質問があればいただければと思います。

【松崎委員】

すいません。あの長い間本当に基本構想を作るためにですね、委員長ずっと苦勞されてきた。内容を見ました。その中で、基本構想のまち作りの目標ってありますよね。ここで水と緑が育むふるさと昭島で、特にふるさと昭島に魅力を感じて、そして、昭島に住んでみたい、ここに生業したいというのが基本的な計画の今回の体系図になってると思うんですけど、それで私、水の件はまず、3年前に昭島って地下水からずっと持ってきてるんですよって聞いてそれで驚いたんですね。そのぐらいの逆に認識っていうかですね、本当によくわからなかったんですね。昭島って1954年に拝島町と昭和町が合併して昭島になったと。それで私あの拝島町に住んだらですね、本当にこの拝島という名前の由来、既に1070年前にですね、この拝島っていうのがあるわけですよ。さらにその辺の元になってる大日堂周辺っていうのは、都の文化財になってるんですよ。さらにずっと調べると、アキシマクジラってあの中洲に、それでそれを大々的に宣伝されてるじゃないですか。だから、そういうもっと根源、拝島の名前の由来とかアキシマクジラってまたそういう観点だけを強調されてですね、私は拝島や昭島の島っていうのはその拝島から来てる、さらにその島って、1070年前にそういう多摩川に仏が流れてきたっていうですね、こういうもとを、この原点、原点ルーツを今回の昭島ということではっきり、原点を表記してですね、あと昭島の歴史ですね昭島市史、そういうものを市制70年をきっかけとして、展開することによって、ふるさと昭島、歴史がある昭島、そして未来に花開く水と新しい北口の構想ですか、未来にも希望があるし、歴史のまち昭島という観点のルーツをこの基本構想の中にですね、ふるさと昭島を強調するならば、そういう手を入れてみたらいいんじゃないかと私は思いました。

【委員長】

おそらくどちらかというところこの戦略は社会の変化に対応するために作られてる部分あるんですけども、おっしゃるとおりで、おそらくその原点とかルーツとか歴史とか、そういった観点というのはもしかしたらあまりこの計画の中には含まれていないのかもしれませんが、でも、どうでしょう、戦略にしろ、この計画にしろ、作る上で、その辺の歴史、もっと言うと昭島特有のものというのがどこまで検討されているのかというのは説明をいただけますか。

【事務局】

ふるさと昭島というところは、松崎委員おっしゃるとおり水ですとか、アキシマクジラですとかそういった魅力で、その昭島のルーツその歴史的な部分ですね、そういった魅力を発信すること、シティプライドといいますか、市民の皆さんが昭島に対して誇りを持つような取組をしていくことで昭島の魅力を発信するところが、この総合戦略でいう基本目標2の昭島の魅力を発信するというパートなのかなと。市史や歴史という部分の書き込みはございませんが、昭島の文化財ですとか、そういったものをしっかり保存していきましょうとか、郷土のお祭りというのを開催して盛り上げていきましょうとか、重点事業としてはそういったものが今書き込みしてあるんですが、その魅力を発信するという中には重点事業でその歴史やルーツをPRしていくというような書き込みはないにしても、その取組の一つとして歴史を発信していくということが非常に大事なのかなというふうに考えています。

【久保委員】

市の戦略があって、戦略に基づいて実行するための計画があって、その中にかというかそれとはまた密に絡み合うんでしょうけども、国が決めてデジタル田園都市国家構想みたいのがあり、その真ん中のところに東京都が本来何かありそうな気がしたんですけど、これ都との関わり方ってどうなのかなと。委員長の方から国が下ろす計画ってなかなかやっぱり47都道府県あって、いろんな市町村があって状況もいろいろ違ってたりとかというところはそれはもうおっしゃるとおりだなというふうには思っていますね、ただ、東京都というふうに考えると、都心と都下でだいぶ状況は違うでしょうが、市とか区に応じた指針というか、こういう取組というか、都が示すようなものも存在したりはするんでしょうか。

【委員長】

これは総合戦略だけじゃないかもしれませんが、都の方針とか、計画がどのように昭島市の方針に影響を与えているのかとか、その辺もしわかるようであればお願いできますか。

【事務局】

確かに総合戦略自体も東京都は東京都で別に総合戦略をしっかりと作っています。その他やっぱり東京都の事業にあたりましては、東京都単独でやる事業もありますし、東京都全体のそれぞれの実態に合わせて、自治体を巻き込んだ、それぞれの政策がありますので、それはそれとしてしっかりとやってという状況です。23区と市町村によっては少し差があるのかなという感を持っております。一つは、財源の関係で言えば、23区の財源と多摩地域の市町村の財源とでは格差があります。ですからそこをやはりしっかりと、東京都の方も、市町村の東京都は全部一体ですから、これもしっかりとやっていただきながら、市は市としてその事業に合わせながら、それにしっかりと取り組んでいくということを今やっております。ですから関連性としては、施策の中でそれぞれの年度の予算も東京都の予算も、しっかりと見てますので、それに合わせた事業展開を図っていこうというところでございます。

【久保委員】

嫌らしい言い方すると、計画がある以上K P Iを追っていくわけじゃないですか。市のK P Iがあって都が追うK P Iの中に昭島が追っていくみたいな話もあったりはするんですかね。

【事務局】

一番大きいのは出生率だと思うんですが、都内の場合低いんですよ。市町村の方が、高くないですが、全国平均に近いです。昭島は平成30年までは1.4ぐらい、その後下がって令和3年で1.25の出生率を持っていますが、都内でいくとやっぱり1.1より少ないぐらいしかないんですよ。ですから指標でいうとそのあたりは少し下がると思います。なかなかこの中で、東京都全体で比べたら難しいんですが、市は市としての今の現在の実情をお示ししながらやっていく方が、市としての今回の総合戦略の施策の状況を見ていくというのが基本的な考え方なので、そういったところでお示ししていきたいとは思っております。

【久保委員】

何が言いたいかというと、都のK P Iもあって、市のK P Iもあって、あれもこれもやるのって結構難しいんだろうなと思っていて、どうせやるんだったら都のK P Iにも効果あるし、市のK P Iにもど真ん中だよねみたいなところに持ってる力を集中的に投下していくというやり方もあるのかなというふうに思ったんですが、都の方針だとかそういったところを自分でも見てから、また次回お聞きできればと思います。

【委員長】

他の例えば県とかと比べると、東京都のホールドというのは非常に少ないです。結構、県は、各市町村の、まさにトップとして、ある意味うまく繋がってやっっているところがあるんですけど、東京都だけ少し特殊ですね。そういう意味では23区と多摩地域の違いはかなりあるという感じがありますし、地方分権も言われていますので、せっくなので市独自のK P Iであったり、昭島市らしさというのを生かした方がおそらく結果的には市民にとっては良い計画になるのかなというふうには思います。いい質問をしていただいたんじゃないかなと思います。

【松崎委員】

長い間討議されてきて、来年はちょうど市制70周年ですよ。それに対して何か例えば市として70年の記念の、60年のときには姉妹交流をしたとかありましたけど、人間で言えば古希になりますよね70で。だから、市の70年に対して、どのようにふるさと昭島アピールしたり、そういう観点でも、私は論議とかと討議をした内容ちょっとあんまり見てないんですね。だから、むしろ今後の未来像をどうするかとかそういう現実的な話が多いと思うんですけど、70周年の取組を最大限に活かせるような施策、市が市史を作っていくとか、そういう歴史を整備するというのは、大きなときだと思うんですけど、市の考えはいかがでしょうか。

【事務局】

市制70周年に向けては、今まさに庁内で色々と議論を進めているところでして、やはり松崎委員おっしゃったように、昭島市の魅力を発信をする絶好の機会だと考えております。各部課が総合戦略だけではなく、総合基本計画に紐づく各種分野別計画に基づいて市役所のどの仕事も進んでいますので、そういった大きな目標に向けてより効果的で、特に今回、総合基本計画の中で、楽しい昭島というフレーズがありますので、そういったものを発信できるような事業ですとか、環境の分野、DXの分野、そういった視点も踏まえながら、どんなことができるかということのを庁内でまさに検討しているところでございます。

今回70周年に向けて理事者から言われているのは、市民と一緒に70周年を喜ぶということを第一に考えた方がいいんじゃないか。ですから、大々的な式典ではなく、ここまで市民の皆さんと一緒に70年歩んできたことを喜ぶ周年事業との同時展開ということを考えているところでございます。

議題③総合戦略の基本目標における政策指標の現状

【委員長】

議題③総合戦略の基本目標における政策指標の現状について、まず事務局の方から説明をお願いいたします。

【事務局】

資料3をご覧ください。総合戦略の基本目標における政策指標の現状ということで、政策指標の最新の数値をまとめたものになってございます。まず、基本目標1から説明させていただきます。基本目標1は「誰もが安心して働ける環境を整える」です。まず、政策指標の一つ目は、市内事業所数の維持となっております。市内事業所数は、経済センサス活動調査と基礎調査の事業所数を記載してございます。活動調査につきましては、令和3年3,263事業所と記載させていただいております。これは、令和4年5月公表の速報による数値ですが、令和5年6月に確定値が発表され、3,330事業所に変更となりました。評価報告書に記載する際には、確定

値の3,330事業所を採用いたします。基礎調査の最新値は、令和元年の3,971事業所です。続きまして、政策指標の二つ目、地元雇用の増加です。市内で就業する市民の数の最新値は、令和2年国勢調査より1万9,245人です。参考として、市外で就業する市民の数についても記載しております。5年前と比較して、市内で就業する市民が増加する一方、市外で就業する市民は減少しております。政策指標の三つ目、就労状況の改善です。15歳以上の就業率の最新値は、令和2年国勢調査より52.2%です。全体の就業率は5年前と比較して1.4ポイント下がっております。男女別で見ますと、男性が3.7ポイント下がっている一方、女性は0.9ポイント上がっております。政策指標の四つ目、M字型曲線の解消です。30代女性の就業率の最新値は、令和2年の国勢調査より61.7%となっております。2ページには参考として、昭島市の男女年齢階級別就業率の平成27年から令和2年の推移をグラフでお示ししております。また、3ページ上段では、昭島市の女性の年齢階級別就業率の推移をお示ししております。男性の60歳未満の就業率が下がっていることや、女性の55歳以上の就業率が上がっているなどの変化が見られますが、30代女性の就業率については、ほぼ変わっていないという状況です。3ページの下段には、令和2年の男女別就業者数及び正規非正規労働者の割合をお示ししております。総合基本計画の73ページをご覧ください。平成27年の状況が記載されております。それとの比較となっております。女性は依然として正規雇用よりも非正規雇用が多い状況ではありますが、5年前と比較すると、就業者数全体が増加し、特に正規雇用の労働者数が増加しているということがわかります。

続きまして基本目標2「昭島の魅力を発信する」です。政策指標の一つ目は転入超過の維持です。転入超過の最新値は令和4年の1,039人になります。転入超過が続いている状況でございます。総合基本計画冊子の78ページをご覧ください。本市の人口の将来展望をお示ししております。将来展望におきましては、令和3年の総人口11万4,587人をピークに令和4年以降は減少に転じると見通しております。令和5年7月1日現在の総人口は11万4,467人です。現在まだ総人口のピークには追いついておりませんが、令和4年以降も人口の増加は続いているという状況です。続きまして政策指標の二つ目です。市民意識調査における愛着度の増加です。愛着を持っていると回答した市民の割合の最新値は、令和元年の67.1%です。市民意識調査は2年に1回実施しておりますが、令和3年はコロナ禍で実施しておりません。今年度は実施する予定となっております。

続きまして基本目標3「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」です。政策指標の一つ目は、婚姻数の増加となっております。婚姻数の最新値は、令和4年の413組826人です。近年、400から450組の間で推移しているという状況でございます。政策指標の二つ目は出生数の増加です。出生数の最新値は、令和4年度の783人となっております。近年750人から800人の間で推移している状況です。政策指標の三つ目、保育所入所待機児童数の解消です。保育所入所待機児童数の最新値は、令和4年度の6人となっております。施設改修等により定員増を図った効果を反映するものとして、翌年度の4月時点の待機児童数をお示ししております。ですので、令和4年度6人というのは、令和4年度中に定員増を図った結果、令和5年4月時点の待機児童が6人になったということになります。

最後に基本目標4「心豊かに安心して住み続けられるまちをつくる」です。政策指標は、住み続けたいと思う市民の割合の増加です。市民意識調査において、住み続けたいと回答した市民の割合の最新値は、令和元年の81.8%です。

【委員長】

政策指標の現状ということをお示しいただきましたけれども、これに関して何か御質問とか御意見等ございますでしょうか。おそらくこの数字だけを見てどう評価したらというかどういうふうに言ったらいいかと悩むところかもしれませんけれども、ぜひ、三田さんにお伺いできればと思うんですけれども、就業状況というのが、昭島市の現状、数字が出ていますけれども、この傾向とか状況というのは、立川管轄地域内というのでしょうかね、そこと比べて何か特徴的なところがあるのかそれとも大体同じ傾向なのか、その辺はいかがでしょうか。

【副委員長】

各市の数字というのを私ども持ってはおりませんので、比較してどうということをこの場でお伝えすることはちょっとできないかなというふうには思っております。ただこのM字型というのは昔はもっと落ち込みがグッと本当のMだったと思うんですけれどもこの谷の部分がかんどんかんどん上がってきて、できれば男性と同じようになだらかな山のようなになればいいなというふうには思っております。女性の就業者の部分なんですけれども、やはり女性の就業者は非正規の方が多いいというのは昔から言われているところなんです、正規雇用の方が増えたというお話だったと思うんですが、これにつきましては各市比較というのはわからないんですが大きな流れとしては正規雇用の方が増えているというのは現状でございます。私どもの施設でマザーズハローワークというのが、立川駅のすぐ近くに、去年10月移転をしてきてるところなんですけれども、そういうところで育児をしながらお仕事をさせていただくという専門の窓口もありまして、女性就業者に優しいハローワークというのを目指してやっております。

【和田委員】

先ほどの説明で私聞き漏らしたと思うんですけど、基本目標1の市内事業所数の維持のところ、企業としては興味のあるところなんです、これは調査期間が違うから事業所数が違うのかなと思ってはいるんですが、実際肌身で感じてるのは、事業所って減っていく傾向にあるなというふうに思ってます。平成28年活動調査の方では、減少傾向にあって、ただ一方で基礎調査の令和元年で増えているんですが、これは調査の違いなのでしょうか。

【事務局】

経済センサスには活動調査と基礎調査とがありまして、事業所数の捉え方に若干違いがあるようなので、活動調査の数と基礎調査の数とを一緒にして事業所数の推移とすることはできません。ただ、どちらか一つだけを採用するとすると、スパンが長くなってしまうので、両方の数値を載せまして、減っている傾向なのか、増えている傾向なのかということを両方で捉えていきたいということで載せております。

【和田委員】

肌身で企業さんが減ってるなと感じてるのは、昭島中神工業団地協力会、残念ながら解散してしまったんですけども、やはり後継者の問題で事業を続けられなくなったりとか、あと中神工業団地も、日本電子も昭和36年に昭島の誘致制度、三鷹の本社から昭島の企業誘致ということもあって、当時の畑がないところに昭和36年の本社を移すってことで決めて来たんですけども、一帯が当時は工業団地ということで、周りが全て企業さんだったんですね。だんだんこの周りの近隣の方のところから、特に音が出る企業さんだったりか、あと油とか臭いとか、騒音関係が出るところの企業さんにとってはなかなか事業がやりにくい環境になってしまって、そこが事業をやめて、そこに新興住宅が作られて、だんだんそれが市民の方の声がどちらかと

いうと強いもので、企業としては居づらいなというところがあって、歯抜けになってしまった。何か市民と企業とが融合できるような、一緒に共存共栄できるような形でできないかなというふうには思っております。それと、一方で市内で就業する市民の数が増えているのは、I H Iさんや栗田工業さんといった大きな企業さんが来ていただいて、就業する方も市内に多いのかなと。当社の中でも一番住んでいるのは昭島なんですよ。私は都外から日本電子に昭和57年に入社しまして、その当時言われたのが、松崎さんが言われたことと全く同じことなんですよ。東京に来るときに、お前どこ行くのって訊かれて、東京で就職しますって言ったときに、東京のどこって言われて、昭島って言うと、島に行くのかって。八丈島とか多分そちらのイメージがあって。そういうこともあって、松崎さんが言われたように、昭島の魅力だったりとか歴史的な部分で何で昭島って名前がついたのかとか、全国的に昭島をもう少し有名にするような何かができたらいいなというふうに思ってます。

【委員長】

今、昭島市内の事業所の現状というお話が出たので、これはぜひ武藤さんに事業承継の話もありましたので、商工会としての現状というのをぜひお聞かせいただければと思います

【武藤委員】

今お話がありました事業所の状況でございますが、たしかに中小企業は厳しい状況に置かれておりまして、なかなか収益を出すのは難しいところです。しかし、そういう中でも、このコロナ禍を乗り越えて頑張っている企業さんも数多く市内にはいらっしゃいます。今年是非そういった企業さんを他の方にも紹介したいということで、事例集の作成というようなことを考えております。また、ここへきて今和田委員さんもおっしゃっていたように廃業というのが結構出てきているということもございまして、それはお話を聞いてみると、やはり事業継承ができないという方が結構いらっしゃるからというところがございます。中小、特に小の方ですね、本当に小さな事業所で特に店舗ですとか、そういったところで事業継承できないといって諦めてしまう方が結構多いので、そういったところをどんな対策をとれるのか、事業継承についてもM&Aといった手法もございまして、そういったところも私ども御紹介はさせていただいているところではございます。しかし、なかなかそういったことをお話をしにくいという事業者さんの考え方もあるようです。そういった相談をやってますよと言っても、意外と手が挙がってこないという状況もございます。それをどうにか変えていかなければ、昭島の企業さん、特に中小企業さんについては、ちょっと心配があるかなということを感じているところです。

【委員長】

この数字だけでは見えないものが、なんとなくやっぱり進行してるんだなということは今のお話を聞いてると思います。小野さんにもお伺いしたいんですが、地域の郵便局として何かこの中で感じるものとか気がついた点はございますか。

【小野委員】

いろいろお客様と多くの方とお話をさせていただく上で、今、東中神駅北側、また昭島駅北側の開発ということで、特に昭島駅の北側につきましてはダイワハウスさんが手がけられる計3棟850戸のマンションが建つということで聞いております。そういった点では、まさにこれからまだまだ人口増というのはあるのではないかなというふうに思っております。青梅線の牛浜から先を、実際に福生市と明確にしてるわけではございませんが、話を聞く限りでは拝島駅までは転入増と。それより西側ですと転出増というふうに聞いてはおりますので、そういった点

ではまだまだ先ほどの水ということもございましたように、魅力あるまちということでは、皆様、色々とお話をいただくことも多いですし、また子育てにおいても非常に育てやすいと。アトピーで子供が影響を受けていたけれども昭島に来て、昭島の水を飲んで非常に良くなったと。それは実際に本当に効果的だったかどうかはわかりかねますけれども実際にそういった意味では、非常に育てやすい街というふうなこともおっしゃっておられました。ただ先ほどの昭島駅の北口にそれだけのマンションが建つという中では、学校や学童という部分において、実際にどうなのかなといった不安もお持ちではおられました。ただ皆様、人が増えると安心できるよねということはおっしゃっておられますので、そういった点では今後色々な意味で、先ほど環境問題ということもお話ございましたけれども、まだまだ明るい未来のある昭島市として、今後も継続的な形で取り組むことによって、魅力ある、また楽しいまちづくりということができんじゃないかなと日頃感じているところではございます。

【松崎委員】

基本目標1の中ですけども、令和2年までが大体今、数字が出てますよね。実際でも、令和3年、4年ってコロナの、実際影響はですね、これまで今数値出てないと思うんですけど、相当この基本的に私達が考えてた数値よりも、大激動ってか大変動してるのがこの期間じゃなかったかと思うんですね。だからその辺の数値がわかれば、まだこれからだと思うんですけど、ある意味では、日本の国も危機的な状況ですし、各企業においても、各雇用においても、すごい危機的な状況ですよね。だから、こういう数値目標は基本わかるんですけど、この激動期の数字とか、こういう危機のときにどう対処していくのかとかその辺のちょっと内容を聞かせていただければと思います。

【事務局】

統計の数値を指標の数値としているので、まだ出てないんですが、これからどのような数字が出てくるのか、一旦落ち込んだ数字がその後どういうふうに変じていくのか、そういった経緯をしっかりモニタリングして行って、それに対してどういう手を打っていくのか、それが大切になってきますので、そういったところで御意見いただきながら、この戦略でどんな手立てが取れるかという意見をいただきながら、施策に反映して、この戦略を良い形で回していければいいのかなというふうに考えております。

【委員長】

どうしてもこの数字だけ見ても、特に一つの数字だけ見ても見えないところもあって、例えばM字型曲線が解消すると逆に待機児童が増えたりとか、そういうことも起こりうると。それぞれが全て良くなるというのはなかなか難しいところもあるでしょうし、それぞれの関係性を考えながら、予想しながら昭島の今はどうなってるのかなというのを見ていくということが必要になるのかなとは思います。

議題④令和4年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価

【委員長】

令和4年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価ということでお願いしたいと思います。事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料4をご覧ください。資料4は、令和4年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況の

一覧となっております。本日、この中の基本目標1について説明をさせていただきます。

基本目標1につきましては基本施策は(1)から(3)までの三つです。まず基本施策(1)「大手中核企業との連携」です。これにつきましては事業は①から④の四つとなっております。まず①官民連携まちづくり推進事業です。まちづくり企業サミットは、市内企業団体の代表者が集まり、昭島のまちづくりについて意見交換を行う会議です。直近では、平成30年12月に12の市内企業団体の代表者が集まり開催いたしました。令和4年度は、次回令和5年度の開催に向けて、関係部署との調整を行いました。続きまして②環境配慮事業者ネットワークです。環境配慮事業者ネットワークとは、市内の事業者が環境負荷低減に向けた取組の情報を交換し、環境配慮の取組の更なる向上を目指すことを目的としたネットワークです。令和4年度の加盟事業者数は35者です。③たま工業交流展の開催です。多摩地域の企業が有する個性豊かな技術や製品を一堂に展示し、製品開発力や加工技術等の紹介を通じた受注の拡大、パートナー企業の発掘に向けた情報収集など、多摩地域の工業振興に繋がるビジネスチャンスの場を提供することを目的に開催されるものです。令和2年、3年はコロナ禍で中止されておりましたが、令和4年度は感染症対策を講じつつ、令和元年度以来3年ぶりに開催されました。④地元企業PR支援事業です。企業見学ツアーやネーミングライツパートナー事業により、市内企業のPRを行うものです。令和4年度の企業見学ツアーは2社に御協力をいただき実施いたしました。コロナ禍で協力いただける企業は少ない状況でしたが、実施方法を工夫したことにより、107名という多くの方に参加いただき、事業の周知が図られました。ネーミングライツにつきましては、フォスター電機とS&D多摩ホールディングス株式会社と契約を行い、地元企業のPRに繋げました。

続きまして基本施策(2)「中小企業・個人事業主の事業継続と事業承継支援」です。事業は四つです。まず①事業承継支援事業です。近隣市や商工会等と連携し、事業者の円滑な世代交代の支援に努めながら、地域の活性化に繋げるものです。中小企業、個人事業主の方を対象として、国が運営する東京都多摩地域事業承継引継ぎ支援センターの専門相談員による事業承継に関する無料相談会を実施しております。後継者がいない、事業の引き継ぎに不安があるなどの経営課題をお持ちの事業者の方の相談に対応しております。令和4年度の相談件数は10件でした。続きまして②ものづくり企業等操業支援事業です。ものづくり中小企業者の操業支援として、昭島市ものづくり企業等地域調整推進補助金の交付を行うものです。この補助金は、市内で地域と調和することで、持続的な発展を希望する中小企業者等が行う地域との共生を図るための取組に対し、ものづくり企業等の市内における事業の継続を支援するとともに、その維持、発展を図ることを目的としております。令和4年度は318万7,000円を交付し、事業継続を支援いたしました。③農業者支援事業です。認定農業者とは、経営改善を図ろうとする者が、自らの創意工夫に基づき、農業経営改善計画を作成して申請し、5年後の経営目標を市から認定された農業者です。認定農業者の年齢層は、主に60代後半から70代であり、多くの方が農業以外でも収入を得ており、農業を主な収入源としていらっしゃる状況です。そのため、農業を廃業しても次の世代が引き継ぐことは少なくなっているというのが現状です。認定農業者21人のうち20人が令和6年3月に認定更新の時期を迎えるため、引き続き農業従事者の後継者確保に資する支援を行ってまいります。④緊急対策事業資金融資支援事業です。経済悪化の影響を受けている市内の中小企業者を支援するため、市が東京信用保証協会の保証により取扱金融機関に融資のあっせんを行う事業となっております。令和4年度は新型コロナウイルス感染

症や物価高騰などによる経済悪化の影響を受けている中小事業者に対し、融資のあっせんを行いました。融資の件数は36件、融資の総額は1億2,830万円でした。また、その融資に係る利子及び保証協会の保証料の補助を行うことにより、経営の安定化を支援いたしました。

続きまして、基本施策（3）「就労者や就労を希望する人の支援」です。事業は六つです。まず①ハローワークとの連携です。ハローワーク立川との連携により、昭島就職情報室を運営するとともに、企業と就職希望者のマッチングを行う就職面接会を開催し、就労希望者を就労に繋げるものです。令和4年度は昭島就職情報室来所者数のうち373名の方が就職をされました。②創業支援事業です。創業に関する様々な相談に対応可能なワンストップ相談窓口を設置し、創業の支援を図るものです。令和4年度は27人の方が利用されました。ワンストップ相談窓口は毎月1回の開催となっております。目標値の30人には届いておりませんが、予定が合わず利用できない方に対しては、連携先のアドバイザーを紹介し、ワンストップ窓口以外での相談に繋げております。③青梅線沿線地域産業クラスター協議会事業です。青梅線沿線地域産業クラスター協議会は、JR青梅線、五日市線、八高線沿線地域に位置する自治体や商工会、商工会議所などによって組織された産業支援のためのネットワークであり、地域の事業者をネットワークで結び付け、この地域の活性化と発展を目指しております。令和4年度はクラスター管内の企業を、東京しごとセンターが実施する合同企業説明会へ推薦し、推薦企業が参加することにより、求職者と企業のマッチングの場の提供を行いました。④障害者就労支援事業です。障害のある方の一般就労の機会を広げ、障害のある方が安心して働き続けられるよう、身近な地域において就労面と生活面の支援を一体的に提供するため障害者就労支援センターを設置し、支援を行っております。令和4年度の一般就労移行者数は17人でした。⑤女性活躍の推進とワーク・ライフ・バランスの啓発です。女性の多様な働き方とワーク・ライフ・バランスの実現に向け、普及啓発を行うものです。令和4年度は、書家の金澤泰子さんを講師に迎え「すべてのできごとに感謝をして～ダウン症の娘と共に生きる～」というテーマで講演会を開催いたしました。44名の方が参加されました。⑥生活困窮者自立相談支援事業です。失業や経済的な理由により、生活に困窮している人に対して、暮らしや仕事、家計などに関する相談窓口を開設し、就労支援などを行うものです。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響や、物価高騰の影響などにより生活に困窮してる方たちに対して、多様な課題や問題の解決に向けて総合的かつ具体的な支援を行いました。

【委員長】

本日は、基本目標1「誰もが安心して働ける環境を整える」というところをフォーカスして見ていきたいと思います。細かい表ですので、皆様おわかりいただけたかなと思うんですが、それぞれの事業に対して目標値が設定されています。数値が書いてあるものもあれば、定期的で開催するとか継続するとか、そういった目標値になっているものもあります。それに対して令和4年度の実績として、数値と、あとは状況が書かれていますので、どこのところでも構いませんので、何か気になったところ、またわからないところについて御発言いただければというふうに思います。

【久保委員】

基本施策（3）②創業支援事業については、計画値に対して27ということで、若干ショートしてありますが予定どおり進んでるのかなというふうに思ったんですけど、この内訳、具体的にどんな職種というか、昭島でどういう創業されてるっていうのは、興味があったんですけど、そ

ういうのって把握されていらっしゃるんですか。

【事務局】

そんな大きいものじゃなくてですね、例えば飲食業をやりたいとか、それから小売店をやったりとか、そういったときに、まずノウハウをここで勉強していただいて、経営手法なんかもそうなんです、開店したはいいいけども、すぐに立ち行かないならないように、長期的なところを勉強していただいて、創業支援するっていうのが基本的な考え方でやってます。これも市単独だけではなく、近隣市とも連携しながら事業を実施しております。

【武藤委員】

この事業につきましては市単独でやっている部分もありますが、大きくは昭島市と福生市が共同でプロジェクトチームを作りまして、昭島市、福生市、昭島市商工会、福生市商工会が4者でいろいろ創業支援をしていきたいと思いますという形で、都の補助金を活用しながら、そういった人の創業支援相談を受けていく。また新たに創業を計画している方に対してプレゼンの場を設けて、どういったものやっていくのかという形で、紹介をしたりしながら実施します。なかなかいろんな業者さんが出てきます。ただやはり会社を直接立ち上げるという方はなく、個人のお店、商店、また今は福祉関係の会社さんから事業所などを立ち上げていきたいんだけど、どうやったらいいのかというような相談を受けているという状況でございます。

【久保委員】

何が言いたいかというと、例えば4年度27人で、この中身を見ていくと、どういう職種、どういうお仕事の方が多いかというのが見えてくれば、例えばですけども、飲食だったらそば屋をやる人は結構多いです、それって何ですかっていうのを実際に創業されたからインタビューしたり。昭島と言ったら水が美味しいから、だから水をキーにして商売しようと思いました、みたいなことが基本的につかめれば、そこに軸足を置いて創業支援みたいなのをもう少し工夫してやってみようかということによって、より創業する人が増えていけばいいのかなというふうに思ったのと、それと①のハローワークのところも年間350人の目標値に対して373人なんで、これ目標を上回ってるペースで行ってますと。ここも内訳を見て昭島市内でどういった職種だとかトレンドというか傾向が見えてくれば、打っていく打ち手みたいのも少し手を変え品を変えじゃないですけども、緩急つけてやっていけるっていうこともあるんじゃないのかなというふうに思いました。これからのというところで、この中身をずっと見ていくっていうのも結構大事なんじゃないかなというふうに思いました。

【委員長】

御指摘のとおりだと思います。傾向が見えることで、どちらの方向に行ったらいいのかというのは非常にわかると思います。スペースがないところでの記述になりますけれども、ぜひそういうふうな記述についても少し意識していただければ、より委員の皆さんはわかりやすいかなというふうに思いますのでよろしくお願いします。

【和田委員】

就労者や就労を希望する人の支援のところの④で障害者就業支援の事業で支援いたしますということですが、実は当社の障害者雇用率が少し下がっておりまして、採用したいと思ってるんですが、昭島市ではどのような活動をされているのか興味があるんですけど、ちょっと教えていただければと思います。

【事務局】

こちらに関しては、内容を確認して後日共有させていただきたいと思います。

【委員長】

ぜひ次回御報告いただければと思います。

【小野委員】

大手中核企業との連携というところで、たま工業交流展の開催というところがございますけれども、マッチングを目的に支援を図るということでこちらの交流展、継続的に開催をされてるというところがございますけれども、実際にそのマッチングの割合とか、そういったところをお話をいただけるとありがたいなというふうに思います。

【事務局】

これ年に1回ですが、産業サポートスクエアを会場にして実施しており、近隣の市町村から多種多様な事業者さんに集まっていて、それぞれ交流の方で何かできないかというようなところで、やっております。そこで、各事業者さんの持っている技術の紹介も兼ねてるっていうのが、このたま工業交流展の趣旨なんです。昭島市としては、参加する企業さんが全体で大体200社以上たしか出てるんですが、その中で市内だと5～10社程度出ているのではないかなと思うんですが、そういった企業さんの取りまとめをしているというところがございます。ただ、全体の中で市内企業さんがどういうふうに結びついたかということについての実績が数字で出ていないため、申し訳ございませんが把握はしていないというところがございます。

【委員長】

では一つ私から質問させていただきたいと思うんですけども、令和3年度2年度については、コロナの影響ありなしという評価がついています。4年度についてはついていないんですけども、コロナの影響というのがそれほどそれぞれのところであまり影響がなかったか、その辺はいかがなんでしょうか。去年はだいぶその辺は、緩和されたりとか、影響がなくなってきた部分もあると思うんですけども、ただ一部ではやはり影響がだいぶ出てるっていう部分もあると思うんですけども、その辺は全体の傾向で構わないんですけども、どういう状況だったのかというのを教えていただければと。

【事務局】

この基本目標の部分で言うと、コロナの影響によって事業を中止してるというところは、影響ありということになってます。それから例えばネーミングライツのところと言うとですねパートナー企業のところ言えば、コロナに関係なく年間通してなので、そういった意味では影響なしというような状況になってます。ただ4年度も全体的にはコロナの影響がなかったとは言えない状況です。ただ事業を実施しているなかで、なかなかその辺まで細かく何か分析するのは難しいのかなということはちょっと考えております。

【委員長】

おそらくある程度対応ができていますので、いろいろやり方は変わったかもしれませんが、新たなやり方とかですね、昨年度は私ども大学が協力させていただいて、産業祭にバーチャル空間でやるという要素を入れたりとかですね、リアルでもやっていましたけれども、そのリアルとバーチャルを組み合わせるみたいな新たな開催方法が生まれたりとかですね。決してコロナのマイナスの影響だけではないと思うので、そこで各部署ともいろんな工夫もされてると思うんですよ。そういうのも少し取り上げてあげるというのも重要なことかなと思いましたので、質問をさせていただきました。

【副委員長】

(3) ③の青梅線沿線地域産業クラスター協議会事業のところなんですけれども、これは東京ごとセンターさんが実施している合同企業説明会ということだったんですが、この規模がどのくらいだったのか知りたいんですけれども。

【事務局】

協議会に入っているのが青梅線沿線なので、昭島市より西側の市や商工会なんかがこの協議会に入って、仕事センターさんにもお願いしてやっているんですが、なかなか開催しても、そこに来る方が少ないという状況です。その辺も課題とありまして、従前は大学に行って就職相談会のようなことをやっていたんですが、人数も一桁台というような本当に少ない状況だったこともあり、それだとクラスター協議会としても取組としてどうなのっていうことがあり、実施方法を変えたというのが実情だと思います。従前は、それぞれの市と商工会が集まって、どういうことでやろうかという話をしながらやっていたんですが、やはりなかなか参加者がいない、学生の方が来てくれないという状況がありましたので、それほど大々的にやってるものではなかったと思います。

【武藤委員】

この件につきましては、我々もこの協議会に参加しておりますので、少し説明をさせていただきます。元々は、ここに書いてあるような内容で企業さんと就職者とのマッチングということで始めたということはお聞きしております。今、企画部長さんからお話がありましたように、なかなか参加者が少ないという中では、現在は新たな、また別の方法というか、一つの考え方として、各企業さんの人材育成なども併せてこの中でいろいろ協議させていただいております。新人職員、中堅職員、管理職というふうに分けて、それぞれ研修会を行ったりですとか、講演会を行ったりして企業の育成をしていこうというようなところでやっております。青梅線沿線ということですので、数多くの企業さんが参加される場合もございますのでそういった形での実施をしております。

【委員長】

就労というのは今、かなり多様化していますし、大学生を見ていると、毎年状況がどんどん変わっていったって、就職活動のやり方とかですね、だいぶ変わってきているので、そういった世の中の動きも含めて、やり方を考えていかなければなかなか集まらないだろうというのは、感じるところでございます。他にはいかがでしょうか。もしなければ、大体会議も2時間ぐらいになってまいりましたのでここまでにさせていただければというふうに思います。おそらく初めてでしたので、戸惑うこともあったかもしれませんが、今日出していただいたような形で、ざっくばらんにですねいろいろ御意見をいただければそれをまた受け止めてですね、次に繋げていければというふうに考えております。

【委員長】

それでは、日程6その他になりますけれども委員の皆様からは何かございますでしょうか。

【松崎委員】

失礼します。あの私初めてなものですからちょっと感じたこととか、何か申し上げてるんですけど、はい。例えばの基本構想とか基本目標とかですね、これに関しての現状の対処後、あと何か新しい提案があれば、一つ見直しというか、見つめ直すとか、そういう観点が書いてありますよね。それで私は特にあの今日、事務局さんの意見を聞いてちょっとわからないことが

たくさんまだあるんですけれど、やはりこの、この昭島市というのは本当に魅力あるんだし、それからこの昭島って本当にあの島じゃなくてですね、昭島の島は何だと。はっきり危機を逆に機会に変換していくような、そういう施策があればですね、昭島にどんどん人が来ると逆に思うんですね。それであの、私あの毎年やっぱ年初には、拝島大師に行くんですよ。あそこに25万人が正月に集まってくるんですね。それも、多摩とか埼玉とかあらゆる所からたくさん来るんですね。だから相当数、人がですね、昭島は実はいろんなアピールする以上に、そこにたくさんの方が来てる。そうすると昭島の魅力って、そんなに人が来ることなんだっていうことをですね、本当アピールしたらいいかなと私は思ってるんですけど、それであの70周年、拝島昭島それで私が思ったことはあの、一応これあのまちづくりの目標ということで、これは提案書をちょっと作ってきたんですけど、それは本当にあのこのまちが良くなる一つの提案として思ってるもんですから。はい。

【委員長】

もし事務局に出していただいて、よろしければ、我々の方にも共有していただいて、次回等その辺の話もできればと思います。

【久保委員】

今後の進め方のイメージのすり合わせというか、これは最終的にこの委員会でまとめて、多分これからも進捗状況等御報告いただくんだらうなあと思っていて、こういったやりとりをさせていただく中で、委員会として何かこう、市長とか市に対してこうすべきみたいなそういう提言を作るっていうのがゴールなんでしたっけ。

【事務局】

この委員会の役割的な部分なんですけれども、総合戦略のPDCAサイクルを回していくという中で、この委員会はC（Check）の部分になります。各種取組について、今回ですと基本目標1について、市で取りまとめた内容を見ていただきましてそれについていろいろ意見をいただいていると。それを最終的に評価報告書という形で取りまとめをして、市長に報告をし、それをさらに議会の方にですね、総務委員協議会という議会の場において議員さんに対して総合戦略のポイントこのように進んでます、こういうふうに評価外部委員さんに評価してもらいましたよと、そういった評価報告書として取りまとめていく。委員会は今回が第1回ですが、2回3回と重ねていって、それぞれの基本目標について議論していただきます。それで今回ちょっと時間の都合で意見を出せなかったような取組がありましたら、本日終わった後でも結構ですので、この取組について、こういうふうに思いますという意見、委員会以降でも結構ですので事務局までいただければ、それも踏まえて、また委員さんに共有して最終的に評価報告書という形で取りまとめを進めていきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

【委員長】

毎回報告書を作って、委員長が市長に渡すということもやって作っています。ですので皆さんの今日のような発言なども盛り込んだ形で、評価というのが文章として残りますので、そういう意味では、いろいろと言っていた方がいいと思います。

【事務局】

今回、KPIの目標値がありますよね。この目標値についても、外部委員の皆さんの方で、達成する見込みがない数字を設定していないか、また逆に庁内でも同じようにこの総合戦略の推進委員会があるんですが、庁内の方でも、今この目標値になってるが、これについて変更し

たいんだけど、外部委員の皆さんの方にも意見を聞いていただきたいという場合には、この委員会に諮っていただいて、それで変更する手続きをする。ですから、委員の方からも、これはどうなのか、市の方としてもこの設定値についてはどうなのっていうのをですね、両方でやりながら、了解いただければ、今度の目標値はここで達成できてるんだったら、もっと高い目標値にした方がいいんじゃないかとか、明らかに達成できない数字あれば、もうちょっとしっかり達成できるようところでやって頑張ればいいんじゃないっていうようなところも御議論いただければと思っております。

【久保委員】

当然K P I の項目自体をコロコロ変えるのは良くないっていうふうには思いつつも、手段が目的化してないかなみたいなところもちょうと過去見てて。そうするとどの程度の提言というか、指摘を申し上げていいのかというのはあったんですけど、忌憚のない意見ということで受け止めていただけるのであれば、はい、ありがとうございます。

【委員長】

事務局からあればお願いいたします。

【事務局】

今後のスケジュールについて御説明をさせていただきます。次回は9月8日（金）の開催を予定しております。時間は午後6時30分からです。基本目標2について御意見をいただきたいと思っております。基本目標2と3はボリュームがありますので大変恐縮ですが、事前に資料4に目を通していただきまして、質問がありましたら事務局にメールでいただきたいと存じます。いただいた質問につきましては、委員の皆様に対して回答することにより、共有させていただきたいと考えております。資料を作成する都合上、基本目標2につきましては、開催2週間前の8月25日（金）までをお願いいたします。

【委員長】

初回でしたけれども皆様、活発に御意見いただきまして、いい委員会がスタートできたんじゃないかなというふうに思っております。この後2回3回とございますけども、引き続きよろしくをお願いいたします。以上をもちまして第1回の総合戦略推進委員会を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。